

PTA全体会校長挨拶

皆様、今日は。本日はお忙しい中を御来校いただきありがとうございました。また、一昨日の廃品回収においては、沢山の御協力を頂きありがとうございました。私にとっては本地区に勤務して初めての廃品回収でしたので、うまくいくかどうか心配でしたが、そんな心配は全く無用でした。どの地区的保護者さんも子供たちも本当に一生懸命がんばってくださっていて驚きと感謝の気持ちで一杯になりました。



今年度も残り3か月余りとなり、残された時間で何をすべきかと考えることが多くなりました。振り返りますと、本校が開校してから8ヶ月余りが過ぎてきましたが、保護者にとっても学校にとってもめまぐるしい怒濤の日々であったかと思います。何と言っても学校が始まってから2日目でスクールバスがもらい事故となり、入学式までに1時間切った中でその対応に追われたときの言葉で言い表すことができない思いはこれからも忘れられないと思います。その後も数え切れないほどの様々な出来事があり、さらには異なる4つの学校の文化と小学校・中学校の文化を融合することは、簡単ではないことを思い知らされる日々が続きました。しかしながら、義務教育学校としての新たな道を切り拓くことが校長としての責務であると思い、ただただひた走って来たように思います。

そして今、保護者の皆様や地域の皆様にとって篠根学園の存在は、どのように目に映っていらっしゃるでしょうか。まだまだやらねばならないことが山積している道半ばではありますが、少しづつ本校としての歩みが安定し、落ち着いてきたように感じができるようになってきました。これもひとえに、理解ある保護者の皆様のお力添えのお陰と思い、感謝致しております。

今、学校教育は明治以来の大きな転換期を迎えています。ものすごいスピードでグローバル化が進む時代にあって、従来行われてきた座って先生の話を聞き、黒板を写すだけの授業では21世紀を生きる子供たちに十分な力を培うことはできません。また、学校運営についても大きく変わらなければなりません。これからは学校を核とした地域作りが求められ、本市では次年度からの3年計画ですべての学校にコミュニティスクールが設置される予定です。それはつまり、学校の経営方針を地域と共に話し合って定め、地域と学校が手を携えて学校を作っていくということです。コミュニティスクールでは教職員の人事についても地域の意見を反映させることができるようになります。なぜなら、校長や教職員は時期が来ればその学校を離れることになりますが、学校と子供たちは地域に残り続けます。たとえ人がかわっても、地域がこうあってほしいと願う教育が継続して引き継がれていくことを可能にしていくためです。校長がかわったら学校の教育方針が大きく変わるという時代ではなくなります。

同様にPTA組織の在り方に付いても、大きな転換期を迎えています。詳細はこの後、PTA会長さんから御説明があるかと思いますので、それを見て保護者の皆様それぞれに御判断いただけますようお願い致します。ただし、良い学校をつくるためには地域と保護者と学校が手を取り合っていかねばならないということは、これからも変わらないと思います。

今日は少し、難しいお話をさせていただきましたが、最もお伝えしたかったことは、保護者の皆様への感謝の気持ちです。本当にいつも御理解と御協力をありがとうございます。私は篠根学園の校長として、皆様とお会いできて本当に嬉しく思っています。最後に1つ、コマーシャルをさせてください。今月23日土曜日に、ハローブラザで「みんなの学校」というドキュメンタリー映画の



上映会を行います。校長として大きく影響を受けた素晴らしい映画です。保護者の皆様にも是非、御覧頂きたく御案内致します。詳細は学校のホームページを御覧下さい。以上、長くなりましたが校長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。